

# ライティングセンター利用件数の経年分析

西浦 真喜子<sup>1</sup>・小林 至道<sup>1</sup>・毛利 美穂<sup>1</sup>・本村 康哲<sup>2</sup> (非会員)

(<sup>1</sup>関西大学教育推進部、<sup>2</sup>関西大学文学部)

## 1. 研究背景と目的

ライティングセンターは学生の文章作成を支援する機関である。関西大学ライティングラボ（以下、ラボ）では、自発的な学生の利用だけでなく、正課授業と連携して学生の利用を促進するよう試みている。そのさい、学生の利用態度が問題となることがある（野村ほか, 2015）。例えば、文章を改善する気がないまま利用する、あるいは、文章の改善が十分でないまま1回きりの利用で終わってしまうことがあり、この状態ではライティングセンターを効果的に利用しているとは言い難い。西浦・小林・毛利（2016）は、ラボの利用者データを用い、利用のきっかけと継続的な利用について検討した。その結果、教員指示による学生のラボ利用は1回きりで終わるようなネガティブな面ばかりではなく、自発的な利用者と同程度に、その後の利用に継続性があることを明らかにした。しかし、分析対象期間が半期間であったことに加えて、利用パターンを単純にとらえていたなど、検討が不十分であった。

そこで、本研究では、分析対象期間を2年間に拡大し、教員の指示を含む利用のきっかけと継続的な利用の関連を詳細に検討する。具体的には、教員指示による学生のラボ利用において、その後どのような継続的な利用があったかをパターンに分類し、継続的な利用の実態を明らかにする。

## 2. 分析データ：対象と変数

2014年度から2015年度までに、ラボに相談に来た学生の相談件数は2197件（2014年度：855件、2015年度：1342件）であった。そのうち、「TEC-system」と申込用紙で照合ができた1965件（2014年度：805件、2015年度：1160件）を分析対象とした。ラボを利用した学生の情報（回数・時期）は、「まなかんウェブ」（2014年度まで）、「TEC-system」（2015年度以降）に蓄積されている。また、ラボでの対面相談を開始するさい、学生は申込用紙を記入するが、そこではラボ利用のきっかけを尋ね、「先生からの指示で」「友人・先輩・後輩に聞いて」「チラシや掲示を見て」「以前利用したので」「Webサイトを見て」「その他」の中から、複数選択可の回答をしてもらっている。本研究では、まなかんウェブ、TEC-systemに蓄積されている情報、および申込用紙の回答内容から、「利用のきっかけ」と「1回目の利用後に継続して利用した回数（以下、継続回数）」を算出し、分析に用いた。

## 3. 結果と考察

### (1) 継続利用件数の変化

まず、全体の利用件数に対して継続利用者（ラボの利用が2回目以上の者）の件数が占める割合をTable 1に、利用のきっかけの集計をTable 2に示す。2014年

Table 1 ラボ利用回数別の利用件数(割合)

|       | 2014          | 2015           |
|-------|---------------|----------------|
| 1回目   | 535 (66.46%)  | 649 (55.95%)   |
| 2回目以上 | 270 (33.54%)  | 511 (44.05%)   |
| 合計    | 805 (100.00%) | 1160 (100.00%) |

度よりも、2015年度は継続利用件数の割合が大きく、利用のきっかけでは「以前利用したから」の割合が上昇していた。これ以降の分析では、統計的な検定を用いるため、1回目に利用したケースだけを抽出した（2014年度：535名、2015年度：678名）。そのうえで、年度により継続利用者の割合が異なるかを検討するため、 $\chi^2$  二乗検定を行った。その結果、有意な関連がみられたため ( $\chi^2=4.90$ ,  $df=1$ ,

$p<.05$ )、調整済み残差を確認したところ、2015 年度において継続利用者が多くなる傾向が示された (Table 3)。

### (2) 利用のきっかけと継続回数との関連

次に、利用のきっかけと継続回数との関連を検討するため、継続回数を目的変数、利用のきっかけを説明変数とする重回帰分析を行った (強制投入法)。また、目的変数には学年と課題の提出までの残り日数も同時に投入した。結果、2014 年度は教員指示と学年で負の係数が得られた (Table 4)。すなわち、教員指示があると継続回数の上昇につながらないこと、および学年が小さいほど継続回数が増えると考えられる。一方、2015 年度は、「チラシや学内掲示を見て」「以前利用したから」「Web サイトを見て」の利用が継続回数の上昇と関連していた。また、2014 年度に見られた教員指示の負の係数が得られなかったことから、教員指示が継続利用にネガティブな関連があるとは限らないと考えられる。

### (3) 教員指示による利用学生の継続利用パターン

教員指示によりラボを利用した学生は、2014 年度 397 名 (74.9%)、2015 年度 478 名 (73.7%) であった。そのうち、継続的に利用した学生は 2014 年度 101 名 (25.4%)、2015 年度 151 名 (31.6%) と、教員指示による利用でも継続利用が増えていた。さらに、継続利用者を 1 回目の利用と同じ課題での利用か異なる課題での利用かによって、

「同じ課題」「異なる課題」「両方 (同じ課題でも継続利用し、異なる課題でも継続利用していた者)」の 3 パターンに分類してみると、2015 年度は「異なる課題」の利用者が増えていた (Table 5)。これは、教員の指示で利用した後に、異なる課題でラボを再度利用したことを示しており、授業連携をきっかけとした自主的なラボ利用促進の例といえる。なお留意点として、15 回の授業のなかで教員が異なる課題を複数回出してラボの利用を指示する場合もあり、Table 5 の「異なる課題」にはそういった利用も含まれる。「両方」の学生数も統計的に有意ではないが増えていたことを踏まえると、教員指示でラボを利用することが必ずしも学修に対するネガティブな態度を促進するわけではないといえよう。

本研究では、経年分析を通してラボの利用のきっかけと継続的な利用との関連を検討した結果、次の 3 点が知見として得られた。第 1 に、2014 年から 2015 年にかけての利用者の増加は、継続利用者の増加によるところが大きかった。第 2 に、利用のきっかけとして学内掲示や Web サイトなどの広報活動が継続的な利用に関連していた。第 3 に、教員にラボの利用を促してもらうなど正課授業との連携が、ラボの継続的な利用、ひいては学生の自主的な学修を促進する可能性が示された。

## 参考文献

- 西浦真喜子・小林至道・毛利美穂 (2016) 「ライティングセンターの利用のきっかけと継続的な利用の関連についての量的分析」『第 22 回大学教育研究フォーラム発表論文集』 pp.60-61.
- 野村優・中島梓・鹿島萌子 (2015) 「ライティング・サポート・デスクの理念と実践—立命館大学の事例報告—」『第 21 回大学教育研究フォーラム発表論文集』 pp.50-51.

Table 2 ラボ利用のきっかけ別 (複数選択可) の件数 (割合)

|          | 2014         | 2015         |
|----------|--------------|--------------|
| 教員指示     | 515 (64.62%) | 709 (61.07%) |
| 友人・先輩・後輩 | 72 (8.94%)   | 99 (8.52%)   |
| チラシ・掲示   | 78 (9.69%)   | 119 (10.24%) |
| 以前の利用    | 155 (19.25%) | 281 (24.18%) |
| Web      | 49 (6.07%)   | 77 (6.63%)   |
| その他      | 11 (1.37%)   | 20 (1.72%)   |

Table 3 年度と継続利用の有無のクロス表

|      | 継続利用    |         | 合計   |
|------|---------|---------|------|
|      | あり      | なし      |      |
| 2014 | 155 (-) | 380 (+) | 535  |
| 2015 | 237 (+) | 441 (-) | 678  |
| 合計   | 392     | 821     | 1213 |

表中の(+)(-)は、そのセルが期待値より有意に度数が多い/少ないことを示す

Table 4 重回帰分析の結果 (回帰係数は有意であったもののみ記載)

|            | 偏回帰係数    |         |
|------------|----------|---------|
|            | 2014     | 2015    |
| 教員指示       | -0.76 ** |         |
| 友人・先輩・後輩   |          |         |
| チラシ・掲示     |          | 1.28 ** |
| 以前の利用      |          | 1.34 ** |
| Web        |          | 1.14 ** |
| 学年         | -0.18 ** |         |
| 残り日数       |          |         |
| 調整済み $R^2$ | 0.06     | 0.06    |
| $F$        | 5.00 **  | 6.78 ** |
| $N$        | 474      | 592     |

\*\*  $p < .01$

Table 5 年度と継続利用パターン別のクロス表

|       | 2014   | 2015   | 合計  |
|-------|--------|--------|-----|
| 同じ課題  | 33 (+) | 30 (-) | 63  |
| 異なる課題 | 35 (-) | 76 (+) | 111 |
| 両方    | 19     | 31     | 50  |
| 合計    | 87     | 137    | 224 |

$\chi^2=7.37, df=2, p < .05$